

な アッ プダ ウン の道 が続 く(	こちらは随分前から気づいていた) 間近にヒトが現れて驚き、あわてて飛び跳ねるように鶴来方面の斜面へ走り去った。カモシカはウシ科の動物でシカとは違う。体型はズンドウで足も短く、シカの精悍さあるいはしなやかさというものが見受けられない。それでも「カモシカのような足」という表現があり、どこからそのようなたとえができたのか不思議である。	
 頂上か らの展 望	平坦な道を進み杉林を抜けると大池にぶつかる。杉林のなかにはスギヒラタケが採りきれないほど生えており、人の少なさを窺わせる。 大池は静まり返っている。このすぐそばまで車で来られるにもかかわらず人はほとんどいない。この大池を右手に巻くように登っていくと途中岩場があり、ロープを頼りによじ登る。この岩を登り切ったところが一番の展望で手取川の扇状地、蛇行する手取川、その川をきれいに平行にはさむ河岸段丘などが見渡せる。そして、あそこが倉ヶ岳とすぐ指させる目印となっている大きなアンテナも不細工に目の前にある。 それに引き替え頂上の展望はあまり芳しくない。	 大池

E-MAIL便り

*「打ちマメ」の方につきましては、山関連情報のみに削減しました。

*同一人においては、最新のものから逆の順での掲載になります。

*文明の利器インターネットは、OB会のように会員が全国に散らばる組織にとって、今や必須の情報手段です。廉価、簡便な機種もありますので、是非とりくんでみて下さい。(というわりには、筆者は初心者のもまで停滞...)

アドレス報告の方には、折々のOB会通信が発信され、HPでは最新情報を見ることができます。

*このようなハイテク時代にKUWV・OB会が乗り遅れずに済んだのは、ひとえに奥名OB会長の御蔭です。OB会にあっては、会長は名誉職ではなく、激務職となっています。この厚意に応えるのは、皆さんからのメッセージ。どうぞキーを叩いて近況をお知らせ下さい。

8期 山村

99年07月28
日

7月25日26日、会社の友人夫婦と二組で立山へ行ってきました。一日目は室堂山、浄土山、雄山往復室堂のコース。わずかな晴れ間と雨がばらばらと来た他はほとんどが薄曇りとガスの中。それでも群生する花々の華麗、可憐なこと言うことなし。泊りは大賛沢して弥陀ヶ原ホテル。天候も回復して最高の夕日と夜景そしてディナー。翌日はちょうど良い晴れ具合で、再度室堂へ向かい、のんびり散策。ここでも花々の歓迎と、大日、剣、立山三山等々の眺望絶佳。

大自然に歓迎されたのは良かったのですが、カップラーメンとコーヒーの準備をして行ったのに、ヤカン忘れる不始末。年のせいにしたらいかんとは思いますが、忘れた事実はどうしようもない。

それではいづれまた。

99年11月16
日

KUWV・年忘れの会で楽しく締めくくろう会

先日ご案内いたしました件につき、皆さん早速ご返事をいただきました。そして久しぶりに多くの方の都合がつかしました。ありがとうございます。

なお、日時につきましては、12月10日(金)の希望が多くありましたので、当初予定を変更しますのでよろしくお願いします。

つきましては、最終版として下記の通りご案内申し上げます。

記

1. 日時 12月10日(金) 6時30分
2. 場所 葵荘 (NTT関連施設。いつも俊成さんの世話で確保しているところで
す。)
港区赤坂1-5-11
電話 03-3583-7655
地下鉄銀座線、南北線の溜池山王駅近く
3. 出席者 (順不同)
吉田洋次郎、伊藤俊成、保田敦、伊藤博道
清水一、森本千秋、鍋島武

以上

追。

1. 俊成さんへ 葵荘については、10日の方の確保をお願いします。
 2. 森本さんへ 私のPC技術未熟のため、あなたのメールアドレスを消去しました。申し訳ありませんが再送願います。
 3. 山中さんへ 予定が変わり、都合よくなればぜひ参加願います。
 4. 皆さんへ 葵荘の地図が必要な方は連絡ください。お送りいたします。
- 鍋島 武 TEL&FAX 047-485-5034 (自宅)
E-Mail nabeshima.nabeshima@nifty.ne.jp
TEL 03-3746-6458 (日産火災)
E-Mail nabeshima44142@nissan-ins.co.jp

99年10月08
日

10月11~12日待望の北海道十勝岳に登ってきました。
平日をかけたの登山で人っ子ひとりいない山行で熊がでてこないか心配でしたが、北キツネに会っただけで快適な一時を過ごしました。
帰りに、宮沢りえの入った吹上げ温泉の露天風呂に入浴して空路東京につきました。
11月には、九州の祖母山に行く予定です。

99年08月14日

やまざと11号 有り難うございました。
年会費未納でしたので、早速振込み致します。当方 年初より坐骨神経痛でMRI診断の結果、腰椎椎間板ヘルニアで一時は手術の覚悟もしましたが、徐々にしびれもやわらいできました。老後の楽しみは軽登山と決めていますので完治必須です。ヘルニアの自然消滅が、あると聞いています。ワングルOBは医学部の方が多のですが、手術せんでも直りますよね。
整形の先生、お教えてください。
親の苦しみ子知らず、で息子はTUWV(東京にあらず、徳島)で建設へ行っていますが夏休みは朝日連峰・後立山・阿波踊・バイトで、家から見えるJRを通過はすれど、我が家へ寄ろうとしません。卒業後も自分と同じで、あてになりません。

第 9 期 平村 耕作

FROM: "Kosaku Hiramura" <hiramura@mx.biwa.ne.jp>

SUB: 犀滝について

こんにちは

「やまざと」ありがとうございました。

今回 犀滝の特集が載っていましたが

とても楽しく懐かしく読みました。

前回の連絡で” 自然人夏号” に犀滝の特集がある
と聞いて随分本屋さんを探しましたがありませんでした。

現役の時 犀滝が好きで何度も行きました。
特にs 4 1. 5. Eに3日間かけてテントを持ってベルクハイムから
犀滝を通って見越山までいきました。あの時高橋君と一緒にでしたが、
とても良く覚えています。(高橋君は今どうしているのかな?)
美しい犀滝を後にしてどんどん登って行くと深いブッシュが連続して
それをかき分けて稜線に出たときは夕暮れで赤い夕日が印象的でした。
あの頃はタバコを吸っていましたが、夕日を眺めてタバコの煙を
くゆらす! ああ 醍醐味だったなあ!

ということで今回の特集にいたく感謝いたします。

10期 木津

99年8月14日

本日、船田節子さんより恒例の「やまざと11号」受け取りました。
KUWV_OB会の専用HPが存在するなぞと、つゆ知りませんでした。
アクセスすると、なんと懐かしい人たちのメッセージがたくさんあり、
一人一人の懐かしい肉声が伝わってくるようです。
これで又、ぐっと身近に感じるようになりました。
会長や節子さん、その他世話人の方々のご苦勞忍ばれますが、今後もさらなる
盛り上げを期待いたします。小生も参加できる機会が有ればと思いつつ、つい
諸々の世話に明け暮れております。 99.8.14 木津 治男

11期 青柳

99年11月14
日

やったね! おめでとうございます。
女流最優秀賞受賞とはさすがです。

ワングルHPで、お姉さまの立山山行と舟田の節ちゃんの穂高山行を拝見、
絶好の日和のなかで、絶景の山岳紅葉を楽しまれたさまを知らされ羨ましく思っていたもので
す。

良い写真ができていますか楽しみとのことでしたが、結果がこの賞に結実したとは、またまた羨
ましかぎりです。

私も、はるか25年ほど前の夏、はじめて買った一眼レフ持参で、北穂高に登った時
に撮った写真(大キレットから槍を望む)で、神戸市の市民写真展に応募し入賞した
ことがあります。それ以降は自己満足の世界で写真を楽しむのみ。
本格的な写真展への応募などは、夢のまた夢。

残念ながら、展示会にはいけない身。どうか成果をワングルHPに掲載するか、
ポストカードにして、年賀状としてでも御配布いただけたらと思います。

そうそう、2月の野沢温泉スキーに、カメラと傑作集持参で御参加されますこと
期待しています。天気に恵まれたら毛無山からの絶景は最高ですよ。

そして、節ちゃんの穂高の写真はどんなだったのかな?
やはり年賀状として配布されてくるのだったら、楽しみにしています。

青柳です。久しぶりにメールします。
この6月に、長岡さんの国土地理院退職を知って以来、ワングル同期で長年のご苦勞を
慰労したいものだと考えていたが、秋になりやっと実現したので報告しておきます。

・11月10日(水) 田町「日本料理 道灌かがり」
長岡・上村・島崎(13期)・青柳 以上4名 18時30分21時

上村とは、スキー仲間。島崎とは、自宅が同じ市内。しかし最近御無沙汰。
長岡とは、電話でのやりとりはあるも、合ったのは、多分筑波技術博以来。
そして、この4人が一同に合ったのは、多分われわれの追い出しコンパ以来では

なかろうか。

そんな仲間でも、「おお、久しぶり」と言い合って「変わらないね」と言って話はじめると全然違和感なしに話がはずんでしまうのだから変なものだ。

長岡氏は、実際何も変わっていなかった。もう少し、頭の毛が後退し、少し太って恰幅良く官僚組織の管理職らしくなっていると思ったが、そうでもなかった。そして、退職した後も、片道3時間の通勤を律義にこなして、「日本地図センター」というお堅い組織の管理職を真面目に勤めあげている。立派だが、本当は、やはりなにか似合わない。

退職して肩の荷を降ろして、気楽な身分になっていると思ったが、どうもそうでもないようで「退職おめでとう」とも言えないようです。

国土地理院の地図は、売り上げが半減し、地図センターは、そのうち潰れる運命にあるとのこと。日本の地図の発展のためには、国土地理院も含めて、民営化したほうが良いと思うが、どうもそんなに簡単にはいかないようではある。

まあ、もう少し、日本の地図のために、似合わない汗をかいてもらわなければならないようですな。

長岡さんへ一言

筑波から都心に出勤が変わったことで、我々とも付き合いやすくなったはず。

9期の伊藤さんたちを中心とした、KUWV東京の集いもあるので、また誘いましょう。

そして、時にはスキーをはくのも気分転換には良いでしょう。2月の野沢は、もう一回考えてみる価値はあるぞ！

・時はちょっと戻った、10月30日(土)11月1日(日)、那須羽鳥湖高原別荘地
北川・上村・青柳 以上3名

絶景の紅葉を愛でるべく出かけた東北の旅で、絶景の紅葉にカラプリしたことで悔いが残った。何とかリベンジをと、色々考えた末に思い付いたのが、同期北川氏所有の那須の別荘だった。長岡氏も一緒に行ければ、すべて上手くいくと思ったが。

まず、北川氏に電話して、同期での別荘行きを交渉、本人仕事の追い込みで新潟出張あるものの、土日は空けることができると交渉成立。

次に長岡氏に電話すると、土日はいろいろと忙しく、勘弁して欲しいとのこと。那須に日帰りでは満足できない。そこで、那須と都心夜の2回戦にして、北川氏に都心夜の部を再交渉。しかし、府中の会社と新潟の支社を行き来している身で無理とのこと。

結果として、北川＝那須、長岡＝都心の2回戦となってしまったのだ。幹事は辛い。さて、主賓が別れたが、後の仲間として、やはり上村氏と島崎氏に声をかけた。

当日朝になって、島崎氏から電話。急に仕事が入ってだめになったとのこと。残念。彼をさそったのは、我が自宅近くに住むゆえ、運転手として最適だったのに。ということで、同期3人の那須行きとなった。

北川氏の別荘は、那須羽鳥湖高原にある。浦和の北川邸から、高速東北道で2時間半。近くにゴルフ場が2つ。そして、羽鳥湖スキー場まで約7。標高800Mの高原で、何より温泉付なのが良い。別荘は、北欧材を使ったウッディハウスで、北川氏本人の設計によるもの。家族または数人の仲間でするのには手頃な大きさ。グットである。

食事係りとして、上村氏をさそったのは正解であった。

白河のジャスコで仕入れた焼き肉を、きれいに料理してくれた。

温泉は、別荘の管理センターに立派な露天風呂があり、また別荘にも温泉が引かれていて、夜と朝の2回楽しめてしまった。これまたグット。

さて、期待の紅葉だが、羽鳥湖の周りを快適ドライブ。紅葉のトンネルの中を走るようで、最高のはずであったが、当日はあいにく小雨が降り出し、紅葉狩には今一步の天気になってしまったのだ。

すべて上手くいくのは難しい。写真は、記念写真をとる程度で終わってしまい、これはやや不満がのこった。まあ、それでも、紅葉はそれなりに楽しめた。

さて、スキー場アンド温泉付別荘の確保したことは、大成果である。

北川氏は体重過多でどうもスキーは苦手。奥様も寒さが苦手とのことで、冬は私のための別荘のようである。2月の野沢の足慣らしのスケジュールを調整しなくっちゃ。また楽しみが増えた。もつべきものは友達である。

北川さん、またお願いします。そして、森川さん、足慣らしに出てきませんか？

人口降雪装置で12月の中旬には滑走可能とのことですよ。

・以上KUWV11期の連絡員としては、気を遣って努めを果たしています。でも、やっぱり一番楽しんでいるのは自分。気を遣っても楽しめる友がいるのは良いことですな。

99年10月23
日

桑名の青春ボーイと金沢のせつちゃん夫婦の本格山行には勝てないが、東北の紅葉を愛でようと、我が配偶者と10月17・19日チョット豪華な旅を楽しんだ。

平泉中尊寺→奥入瀬渓流→八幡平と紅葉の名所を一巡り。バスツアーでは、これに八甲田・田沢湖・角館などが入るところだが、焦点を紅葉の名所に絞って、時刻表でJRと路線バスの旅を組み立てた。日頃の行い良きをもって、天候にも恵まれたが、紅葉は、緯度と標高でその盛期を移動する—という自然の節理を存分に実感させられたのだった。

平泉は寒かった。北風の中を、奥州藤原家の栄華の跡を巡ったが、金色堂の前のモミジはまだ青々としたままだった。でも、金色堂の御仏の前では、厳肅なる気分となって思わず深く拝礼。柿の実が色ずき、わずかに紅葉のはじまった境内を2時間ほどかけてめぐったり、これから始まる紅葉への期待を大きくしたのだった。

三沢の古牧温泉に一泊。絶景の露天風呂では、冷たい雨の中、ビニール傘をさして、ライトアップされた人口の絶景を楽しんだ。

翌日は、奥入瀬渓流→十和田湖。天気は、晴れ。冬型の気圧配置から移動性高気圧に覆われ、木漏れ日のさす中を、約3時間の渓流歩きを楽しむ。十和田湖の標高が400m、人口杉林が少ない十和田の豊かな広葉樹林は、標高の低い分、ブナ、トチノ木やカエデの木々が太く育ち、それは見事な原生林を形成している。渓流に沿って遊歩道が整備され、沢の両側に次々に表われる滝を楽しみ、流れの変化がつくる渓流美に、我が愛機のミノルタα707は大活躍。ただし、紅葉は、標高が低い分まだ、1020%程度。わずかに黄色味をおびた木々がある程度で、カエデ類はまだ緑のままだった。このうっそうとした豊かなカエデ類が赤にそまるところの紅葉は、どんなにか素晴らしいだろう。

十和田湖では、遊覧船に乗った。湖のカルデラを覆う見事なブナの森も紅葉は、まだ30%程度か。湖岸のナナカマドは赤い実を付け、葉も赤さを深めてこれから始まる錦の紅葉の先駆けを作っていたが、1週間10日早かったか。宿舎にした十和田プリンスホテルは、静かな湖面にたたずみ、フランス料理のディナーもグットで、新婚旅行以来のチョット贅沢な気分を味わったのでした。

2日目までで、手順ミスで送信してしまった。続きを書くと

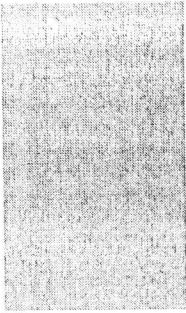
3日目の10月19日は、快晴に恵まれた。十和田湖から八幡平山頂行きのバスに乗った。事前の情報では、八幡平は紅葉のピークのはず。期待に気持ちが高まる。トロコ温泉という変な名の温泉をすぎて、バスはアスピーテラインに入る。道の両側の白樺林が黄色に紅葉し奇麗だ。そして、大沼温泉に至るあたりから真っ赤に染まったブナの原生林が始った。ワンドフル！素晴らしい紅葉！バスは、大沼から後生掛温泉へむけ、まさに錦織の大紅葉の中を快適に走る。そして、硫黄の匂いが漂う噴気後生掛温泉まで、バスは一気に登ってしまった。そこは、標高1000mあたりか、すでに亜高山帯に入り、ブナの大木林から視界が一気に開け、八幡平山頂に向け青森トドマツ(オオシラビソ)の樹海に変わった。そしてそこは、季節が一変し、白く輝く雪の世界が展開したのだった。

2日前、三沢の絶景露天風呂で雨に打たれていたころ、八幡平山頂には雪が舞っていたのだ。アスピーテラインは、さらに高度をあげて、標高1500mの山頂駐車場まで一気に登ってしまった。快晴の秋の陽光に岩手富士(岩手山)をはじめ優雅な奥州の山々が白く輝いていたのだった。

路線バスは、融通がきかない。大沼あたりで、1回バスを降りなければいけなかった。十和田湖からのバスは、1日2回のみ。田沢湖からのバスの時間を調べてなかったのが失敗。標高700m1000mまでの紅葉の盛期地帯は、10分程度バスの車窓から鑑賞となしてしまったのだった。

盛岡に降りるには、バスを乗り換える。2時間ほど時間を確保していた。気分を変えて、新雪の八幡平山頂まで、往復約一時間の雪山歩きを楽しんだ。このオオシラビソの樹海は、それはまた見事なもので、1613mの山頂をお覆っていた。そのオオシラビソに積もった雪は、もう解けることはなく、降雪を重ねるごとに育ち、あの樹氷原に姿を変えて行くのだ。濃緑のオオシラビソの森とそれを覆い隠そうとする雪の白さのコントラストがまた艶やかで、予定外の至福の景色を堪能したのだった。

黄金と紅赤に松の緑が混在して作り出す、東北の落葉広葉樹林の錦織りの紅葉を楽しもうと計画した旅は、その素晴らしい予感を味わい、その美を一瞬の車窓から見て、最後は一転して新雪の輝きを堪能した旅となった。都会のビルの中で生活していると、日本の四季の微妙な遷り変わり、北から南へ、また山の頂きから里へと、時とともに季節が流れるその自然の営みに鈍感になってしまう。



季節の瞬間の輝きを捕まえようとする旅は、計算してできるものではないのだろう。でも、宿題が残った方が明日への意欲がわくというもの。今度は、八幡平か八甲田の山に焦点を定めて、じっくり歩くワンゲル流にしようと思う。

そして、新雪の中を歩いて、また新たに始まるスキーシーズンへの気持ちが高ぶってきた。さあ、1000年紀のシーズンに向け、準備をはじめようか。

※セツちゃんへ

――2月26日、27日は宜しくね。そして、やっぱり25日も確保しておいてよ。

99年9月15日

9月の中旬になっても、30度を越える日々が続いています。これでは、10月の中旬に予定している、「十和田湖・奥入瀬渓流」の旅の時には、まだ紅葉になっていないのではないかと心配になってしまふ。森川氏の推奨する白山の大紅葉と同レベルの感激を、東北の山で夫婦二人で味わいたいと計画しているのだが。

さて、先週11期のOB会費未納者あてに、納付依頼文書を送付しました。反応がどうか(振込みがあったか)、確認して下さい。塚本・窪田の両氏にも、森川・加藤氏より確認した住所にて送付しております。入金が確認できたら、「やまざと」を送付して下さい。

11期連絡員としての仕事をした満足感に浸っておりますが、手紙を出した相手からは、当方に反応が無いのは寂しいものです。筆不精、振込み不精の輩を友に持つのも疲れますね。そのうち、必要な者には、電話にて督促するつもりです。

15期のように、毎年同期会をしている団結力に敬意を表するものです。ずうずうしくも、それに便乗する輩もありますが、勘弁して歓待してやってください。

99年8月11日

やっと夏休みとなった。たった1週間だけでも、灼熱地獄の都心を離れられると思うと、幸せなり。東京のサラリーマンは、勤務先でメールしている先生とは違って大変なんです。

今回の休みは、同時期の休みの森川氏の行いも良かった故か、天候には恵まれそうなのがまず嬉しい。自分と森川氏を誉めてあげたい。

休みの日程は、
今日から、信州聖高原に里帰り。――庭の草刈りやら安曇野にUターンした先輩との交流
水・木・金と家族サービスの小旅行
―― 高山・新穂高・乗鞍・上高地とドライブ・ロープウェイを使つての欲張りPWなり

すべては、1週間しか休みの取れない、日本のサラリーマンの寂しさよ
本当は、誰かさんみたいに、白山にも行きたい。槍ヶ岳にも登りたい。
でも、冬も楽しむためには、家族サービスも大切なり

では、白山行く人は、足元に気をつけて。体力の範囲で行動するよう注意しておきます。
私は、せいぜい安全ドライブで、行ってきまーす。

ああ、夏休みは終わってしまった
世間ではお盆休みが始まったのか、山手線も空いてきている
でも、もう夏休みが終わった私は、汗をふきふき会社に行くのです

さて、終わった夏休みを振り替えると
圧倒的な快晴が、8月3日まで続いていたが、地球気候は甘くなかった
熱低が、台風8号に成長し、我が小旅行に合わせて、日本南海上に停滞した
でも、森川氏の報告のとおり、山歩きには丁度よかったのだ
8月5日、新穂高ロープウェイに乗った。降りると、笠ガ岳が圧倒的な迫力で
迎えてくれた。そして、雲海の先に、あの白山が浮かんでいるのがはっきり見えた
同じ時間、その白山では森川氏が、一人今世紀最後の山歩きを楽しんでいたのだ
心のなかで、モリカワーと叫んだが、聞こえたのかな

だが、台風の風を直接受ける穂高方面は、雲に隠れていた
セツちゃんが、快晴の中を登った槍ヶ岳の穂先も、時々顔を出すだけだった
軽いハイキング気分で、西穂高山荘まで往復したのだが、これが意外とキツカッタ
西穂高山荘でも、視界はきかず乗鞍岳や下に見えるはずの上高地は、雲の中だった
でも、山荘近くのお花畑では、ハクサンフウロの淡いピンクが気持ちを和めてくれた

今回の小旅行最大のイベントは、乗鞍岳スカイラインーエコラインの山岳ドライブだ
勇んでスカイラインを登っていったが、ヘッドライトをつけて車が降りて来るのだった
そう、山頂付近は、厚い雲の中だった。駐車場で写真を撮っただけで、早々に信州側
に降りざるをえなかった。山で、霧にまかれた経験のない、女房殿と子供たちは、
「恐いから、寒いから、早く降りて！」とわめき、急つかれるように降りたのだから、
高山植物を愛でる時間もわが愛機α707siの活躍する場もなかったのだった
本格的な山岳道路で、家族を乗せて、霧の中を走るの、正直気持ちの良いものでは
なかった。今年3月、森川氏・小山氏との志賀高原雪中ドライブの経験がなければ、
私のかいた冷や汗は、何倍か違っていただろう

乗鞍国民休暇村に泊まって、翌日6日は、上高地散策を楽しんだが、穂高はついに
全容を見せてくれなかった。明神池では、予想外の雨にもふられた。
でも、傘を指しての上高地散策もまた、それなりに味わい深いものがあったんだ
ほんの1メートル先の目の前の梢で、ウグイスがさえずる幸運にも出会えたのだった

安房トンネルができて、気軽に楽しめるようになった、高山と乗鞍・上高地の旅
上高地は、本当に人で溢れていた。河童橋では、写真を撮る場所もないほどだった
平湯温泉の集客は、3割アップと聞いた。まさにトンネル効果である
ただ、東京からは、我が故郷松本は、観光上は通過都市となっているようだ
松本城を見て、高山に入り、金沢に泊まる。そんなツアーがはやっているようだ
関西・北陸・名古屋方面から、トンネルを超え、松本に泊まるツアーもはやってほしい

かくして、夏休みは終わってしまった。でも家族サービスは、まあ予定どおりできたはず
ただ、それにより父親としての威厳が増したのかは定かではない

甲子園もはじまって、まだまだ暑い夏は続く。今年の夏は、(関東は)格別暑い！
景気の回復も今一歩。予算オーバーになった旅の後は、ビールにかけける分も控えにやならん
次の秋の旅と、冬のスキーをめざし、また体力作りに励もうか

99年07月22日

長岡さん、無事のご帰国まずはおめでとう
パキスタンの1ヶ月間の旅は、どうでしたか
さぞ、「我が人生、最高の旅！」を十二分に楽しんできたのでしょう

思えば、1年前の私も、8月初めからの1週間の初の海外旅行に胸を
躍らせていたものだった。そして日本に帰って、ほっとしたと同時に、
海外での浮世ばなれした、のんびりした生と日本のあまりにアクセクした
生活との落差に、ガックリしたものだった
炭酸ガスが多く、蒸し暑い日本の夏にも閉口したものだった

我がハワイの1週間と、貴君のパキスタン1ヵ月では、おお違い
でも、日本の我々にはない、本当に自由な人生を生きている人間を見てきたと
思います。大いなる山とヒンズー教や仏教の発祥の地での旅での感慨を、
聞かせて欲しいものです。

さて同じ退職でも、我がリストラされての関連会社転籍と、貴君の建設省の掟とはおお違い
給与を半額にされて、旅行後翌日には、同じ場所に出社して入社式をした我と、
ちょっとのんびり好きな研究をしてみようと思っていますという人とは、おお違い
高級官僚の部長殿の進退には、今日日本で一番弱気になっている民間金融業者の
系列にやっこ繋がり生きてる輩は、一寸焼きもちを焼いてしまいます

でも、「人間汗をかいただけ、幸せも大きい」——も真実
そして、「幸せの総量は、人間死ぬときには皆同じ」——もまた真なり

厚生省の掟を書いて有名となった元官僚、強いアメリカの象徴だった元大統領のJr
そして、最愛の妻を送って人生を自ら完結させた文芸評論家と、気になる死のニュース
が続いて、ちょっとセンチメンタルになっているのかな。高尚な文章になってきたぞ
そうだ、あの白山の谷で逝ってしまった山と釣り好きの彼の一周己も近いのだった

さて、余暇利用で旅をした後、もはや出社する必要なく、やはり余暇ばかりとなった
貴君の今後の予定はどうか？
計画的な貴君のことだから、しっかり、どこかの女子大教授の口が待っている——
そんなことではと思うのですが

でも、KUWV11の連絡係りとしては、まずは、「季刊誌 やまざと」への大論文投稿を
進言します。すでに、何冊かの著作をものした貴君には、舞台が軽いと思ひますが、
読者の幅を広げるためには、良い訓練になりましょう。なにせ、名編集長殿のしごきに
耐える必要がありますから。

そして、余暇の中の夏の休暇後にも、KUWV11東京の連中で、貴君の退職祝いの
宴を開きたいと思っていますので、都合をつけて下さい。楽しみにしています。

加藤の忠さん・森川の功さんへ
窪田・塚本両氏の所在は、受け取りました。でも、夏の家族サービス前の仕事もあり

不良債権取りたてまでのエネルギーが出てきません。
井上夫妻を含む、大量なる債権取りたてには、まだ時間を要するとおもわれますので、
別途督促方よろしくお願いします。

では、また。梅雨明けを翌日に控えた、南埼玉から

数日後に、半世紀+2の誕生日を前にして 青柳 健二

11期 加藤

99年11月20
日

どこか遠いところでスキーの話がはずんでいるようですが
鬼の保田さんも参加されるということですが
(ちょっと懐かし、また、反射的に恐怖を感じてしまう方である)
私の予定は未定です。

今年は、学校でも比較的閑職にありつけましたので
絶対参加できないというわけでもありません。
が.....

野沢は遠いですね。
明石からだ、行きで半日、あとは晩飯
翌朝、朝食の後、帰りで半日というのは
私のスキー技術から考えると、
なかなか、さみしい(きびしい)ものがあります。

あとは、いかにして、学校をサボれるかにかかっているわけですが、
入試や学年末の業務とにらみあわせて考えたいと思います。
国民から愛される公務員としては、業務第1と考えておりますから
もう少し時間を下さい。

ところで、野沢については、昔
「やましん」という小さな民宿で
OBスキーを2回ほどやったような記憶があります。

みなさんの覚えていますかね。

99年11月15
日

皆さん、よくお出かけのようですので、
私もつられて、11/13、14の両日で
四国の山にに行ってきました。
天気は上々、快晴、暑いくらいの日でした。

目的地は、標高 900m以上の信仰の山。

勿論、写真の通りのロープウェイを使いました。

(写真はHPから盗んだもの)

四国霊場中最高峰に位置するため、別名「四国高野」とも呼ばれる雲辺寺は香川県と徳島県
の県境に位置し、札所としては讃岐の一番になっている。1200年の歴史があり、観音信仰を
求め

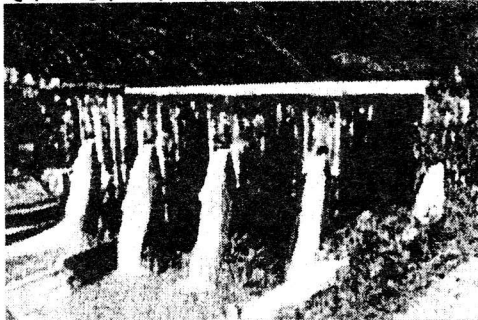
て善男善女が全国各地よりご来山、法煙絶えることなく、山林百町歩には巨木が繁茂し、仏法
花開く霊山である。

<http://www.pasutel.co.jp/wnn-c/wnnta12/3unpen.htm>

日頃行いのよいみなさんのために、安全登山を祈願してきました。

紅葉がちょうど見頃で快適でありました。

それから、日本で初めてのアーチ式ダムという「豊稔池」まで歩きました。



<http://www.pasutel.co.jp/wnn-c/ike/osusume/hounenike/hounen.htm>

車社会の中で歩いているのは、我が老夫婦ぐらい。
排気ガスに肺を洗い、車におびえながらのハイキングは辛いものがありました。
日本の社会資本整備はまだまだのようです。

99年10月25
日

急にお寒くなりました。
先日の朝日新聞に白山の初冠雪の写真が載っていました。
白山が冬支度をしていましたので、
我が家もその日から「こたつ」を入れました。

神戸の方は、寒さに鈍感なところで
真冬でも教室にストーブがないのです。

99年09月01
日

今日から、新学期です。

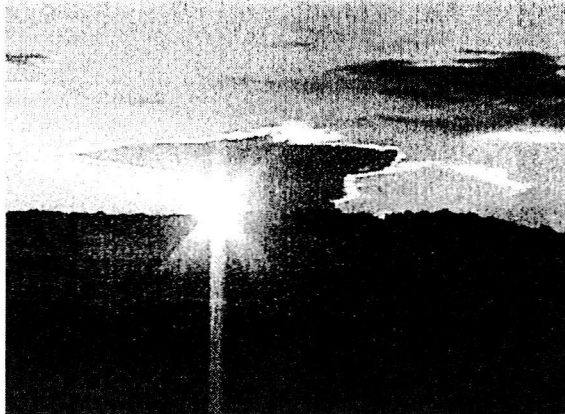
ところで、
<http://www.yomiuri.co.jp/osaka/home.htm>
「花の名所」をご覧ください。

8/17～18の白山の写真が載っていますよ。

この写真は、永井旅館で知り合いになった
読売新聞の記者さんの家族登山より作成したものです。
画面は、VTRからのものですので
奥名会長の写真より少し落ちますが
仕方ないでしょう。

でも、私にとって、写真に撮れなかった
当日の観光新道の花が写っているので大感激です。

また、北鎌あたりの金床雲から出てきた
ご来光が、実にすばらしかった事がわかるでしょう。



撮影：小泉 清氏 (e-mail: koizumi@po.iinet.or.jp)

加藤忠好氏(11期)白山へ行くの巻 (1/4)

去年のKUWV記念行事で
白兀山(医王山)に登ったことに気を良くし、
今度は、是非、白山に登りたいと思っておりました。

どう見ても、体型的にも、気力的にも無理な感じでしたが、
舟田事務局長をはじめ、11回森川などがやたらと奨めるので
ついその気になってしまいました。

しかし、現在、室堂に泊まるには予約が要とのこと。
登山では、種々の条件で引き返したり中止するなど
予定変更は付き物である。
なんで予約なんかしなくちゃならないのかと思いつつ、
それでは、登山客の少なくなる盆過ぎにと計画を立てた。

何しろ、ボッカ要員はいるし、問題は道具と自分自身の体力である。
それと、是非、娘(手依理)を連れていこう。
なぜなら、菜就は体力に任せて、スカスカ登りそうだから。
そうすると、どうも父親の権威が危うくなる。
そんな事は分かっているけど、かつての山男のプライドが許さない。
そうなのだ。
手依理に高山植物を教える事で、休憩時間稼ぎができそうであるからだ。

ところが、手依理はどうも行きたくないようだ。
そこで、山の素晴らしさを説明していると、
家内が「行きたい」といい始めた。

これには困った。
なぜなら、家内は日頃から歩いたことがない。
もし、家内が先にバテたらどうしようか。
しかし、ままよ。というわけで、
家族4人での白山登山と相成った。

お盆の金沢は雨だった。
南龍の小屋に電話すると
天候の悪さと、盆過ぎであることからOKである。
運のよいことには、ケビンが空いている。
ケビンは1室12000円だから、一人当たり3000円である。
出発日は8月16日(月)。
荷物は5Kg。(着替えと、当日の昼飯。非常食だけ)
菜就は25Kg。(4人分のシュラフ、食料その他。軽い軽い)
手依理は7Kg。家内は?Kg。
南龍、室堂の2泊3日の行程であればなんとかなるだろう。

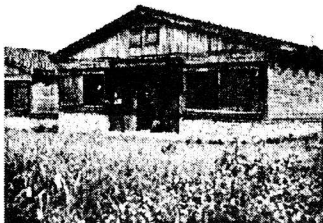
8月16日(月)くもり。別当出合9:10発
下山者は皆、上下の合羽を着ている。
甚之助ヒュッテ下部まで雨風が強いとのこと。
いやな予感がする。
しかし、天候不順による勇氣ある下山という判断も可能である。
私の体型にとって決して悪い状況ではない。
また、さいわいなるかな。家内の歩調が遅い。
おかげで、ゆっくり登れ、しかも、この遅さのため、
ゆっくり上昇した雨雲に追いつくことなく濡れずに15:40南龍着。



8/17奥名会長の下山後に天気
は回復に向かっていた。

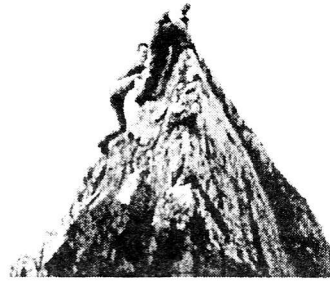
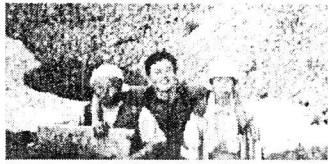


20年ぶりかのなつかしい風景だ。
イブキトラノオ、ハクサンフウロなどお花畑が実に美しい。
ケビンもとてもきれいだ。広さは7.5畳位に土間がついいている。
1棟に2部屋だけだから、遠慮は要らない。



(結局となりには誰もこなかった。)
コッヘルで飯を炊き、切干大根と豆の煮物、糠いわし、食当は私である。
夜、手が届くような星空に娘が感動していた。夏なのに寒い。

8月17日(火)くもり。南龍11:50発。
疲れのためか。ちょっと寝坊。
室堂に予約を入れる。
エコーライン上部より上は霧がかかっている。
今日は、室堂だ。何とかなるだろう。
エコーライン、弥陀が原はみごとなお花畑だ。
登るよりも休憩、休憩しているうちに晴れ出してきた。14:35室堂着。
雑煮がうまい。室堂は改築中だが、宿泊棟は昔のままだ。
空いているはずなのにギューギュー詰め(定員通り)の部屋。
南龍の快適さとはえらい違いだ。
部屋にいても気分が悪いのでお池巡りへ。
青空と霧がめまぐるしく交替する。
手依理に高山植物を解説しながら、また図鑑で忘れた植物を思い出しながら散策する。
千蛇ガ池近くでは、マイヤマキンバイ、チングルマ、アオノツガザクラが満開。
南龍では、もう実がなっていたのに。秋から夏への逆戻りを楽しむ。



白山さんのおみくじ

ること。【旅行】吉。殊に登山はよい。但し天氣が悪くて出足が鈍ったり、初め少し故障がある。【方角】西

熱雲の岩と遊びながら、紺屋ガ池から17:00御前峰頂上。

アッ、ブロッケン現象だ。

白山頂上でなんて。家族一同感激する。なんと幸運なことか。

元気な菜就と手依理は先に室堂へ。

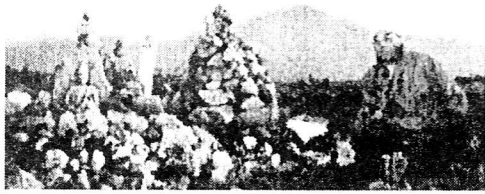
御岳、乗鞍が見え始めてきた。

19:30に炊事小屋が終了なので社務所の前でゆっくりと食事。

20:30就寝。室堂は案の定暑い。シャツ一枚とパンツ一貫でも暑い。

部屋がガラガラなのに、よくも詰め込んだなあ。

暑くてほとんど眠られない。家内もそうらしく盛んに寝返りをうっている。



登山に触れたおみくじは珍しい。

奥宮のおみくじの中身はありがたいものであった。

8月18日(水)太鼓の音で起床4:30

ご来光を見に平瀬道の方へ行く。北ア、乗鞍、御岳、南ア、中央アなどくつきり見える。

槍と大切戸の向こうに金床雲がかかり雷が時折見える。フィルムが切れたのが残念。

金色の雲が実に美しい。御前峰を見ながらの菜就が作るスパゲッティを食う。

室堂8:00発。天気は上々。暑い。

観光新道は、初秋のお花盛り。

マツムシソウ、ハクサンシャジン、ミヤマハハコグサ、何とかアザミ、ニガナ。

本日は、雨上がりのためか秋のように視界良好。

釈迦岳をはじめ別山、から加越国境、経が岳、赤兎。下界の町が見える。

実に快適。

しかし、慶松平の上部あたりから膝が痛くなってきた。

オッ、リンネソウらしきが...

(旧道と観光新道の分岐の少し上部にそれらしいものを見つけたがほんとは何だったのだろうか)

観光新道は整備されすぎて、石の階段続き。下りには辛い。

11:30別当出合着。12:30バス。手依理と家内は明石へ。

菜就と私は、市ノ瀬の永井旅館泊。

実に、高校1年の時の白山登山以来30数年ぶりの宿泊である。

適温の風呂に浸かり、山菜のご馳走を食べた。

標高800mの宿は涼しく心地よい。

というわけで、再デビューは白山ということになりました。

皆さん、ありがとうございます。

いまだに感激しています。

11期 芝田

99年11月14日

さて、昨日の土曜日、とっても好天だったので
自転車で八ヶ岳山麓へ行ってきました。

普通の自転車に、普通の格好で行くのです。

茅野まで45分、それから1時間弱ゆっくりとくともう、裾野に入ります。都会ナンバーの車が来て
写真を撮っていますが、交通費0でこんないい所へ来れるなんて、いいですね。

裾野はすでに落葉がすんでいます、途中の集落や雑木林の広葉樹がきれいです。

もちろん、連峰はばっちり見えますが、新雪はすっかり解けて、見えません。

ちなみに、我が家は諏訪湖にごくちかい、山裾ですが、その裏の雑木林が色づきはじめました。

まったく使いようのない雑木林ですが、それゆえに雑多な色になって美しいのです。

そうそう、諏訪湖の向こうに落ちる夕日もきれいでしたよ。

節子、遊びにすれば、我が家のリビングルームから
お茶を飲みながら、この夕日を見れるぞ。

99年10月26日

八ヶ岳の初冠雪は……
それは、先週、20日でした。

その後、毎日、これ以上ないような、いい天気が続いています。
きょうは、5時に会社を出て、我が家のベランダで諏訪湖のむ
こうの、まだ明るい空をじっと眺めておりました。

蓮華温泉の露天風呂が懐かしいなあ。

11期 長岡

99年11月08
日

晩秋の山の情報

もう、山の秋も深まりました。名残の紅葉の時期ですが、まだ山にお出かけの
予定のOB各位もあろうかと思い、ご参考まで、白山周縁などでの道路事情です。
順不同にて。

以下は、先週後半に実家に出かけた際に、慌ただしく車で各地を廻ったときの
もので、実見したもの以外は、(…談)などとしてあります。

1. 手取川(牛首川)上流域

別当出合までの道は問題なし。もう登山者も少なく、出合の休憩舎の前に駐車
し放しても問題はなさそう。同所便所は冬季閉鎖済み。

中飯場と、湯谷川への工事用道路は、以前同様に見張所があつて、侵入不可。
白山スーパー林道は、11日より冬の通行止め。

大日川・手取川合流点南の、鳥越城址にて、木造の砦のようなものを築造中。
いずれ観光地化されるのでしょうか。

白抜山・鷲走ヶ岳への林道は、その入口の東二口にある最後の家のところに、
新しくゲート(鎖張り)が出来て、車が入れなくなった。大変便利な道だったの
に、残念なことです。なお、下田原谷の脇から登る林道の方には鎖がないので、
大回りかつ悪路ながら、こちらを廻れば入れそうだが、上部の通行可否は未確認。

目附谷林道：一里野から目附谷を大きく廻り込んでいる林道に対して、目附谷
・荒谷の間の尾根に直接上がる林道(ウサギ谷より上がる)が連結したので、楽
しい周遊コースができました。

下田原谷の林道：最後の出作り小屋(標高約700m地点)の少し手前に新しく
ゲートが出来て、車が入れなくなりました。

赤谷林道：小赤谷の方は終点まで車が入るが、その少し先にあった出作りの家
は消滅。仮小屋あり。小赤谷分岐の先で、赤谷は、さらに上流部の工事のために
泥濘となって通行不能。(車高の高いダンプカーなどは通行可)

明谷林道：松倉谷の手前に、大きな砂防ダムが新設され、林道はそこでとぎれたまま。

丁度、土・日曜日に、白峰村で百万貫ノ大岩に登るといふ催しをやっていまし
た。金沢在住の方で行かれた方もあるかと思いますが、またとない機会で、
ひょっとしたらまだ足場が組まれているかも知れませんが不確かです。

白峰の西山南山麓：余り知られていないが、そのクロスカントリースキー場
で、とてつもない土地改変が進行中。

五十谷・大杉谷・河内谷：いずれも昔の出作りの地で、静かなまま。
尾根を挟んだ、赤兎山への登路は、終点まで車通行可(勝山市役所談)。

2. 庄川本流の上流域

大白川の林道は、結局今年はゲートが開かず、そのまま冬の閉鎖となる。入口
の見張所の監視人の話では、20数箇所の崩壊があるが、来年6月1日には一般車
にも解放される由。なお、白山室堂には下山禁止の表示があるが、それでも降り
てくる人があるので、やむを得ず、下山者は車で送っている由(歩いて貰っては
危険につき困るので)。

ブナオ峠林道は、「当分工事中」のまま、今年はゲートが開かずに終わる見込み。

境川ダムへの道(大笠山への登路)は、問題なし。

天生峠への国道号は閉鎖中。9月に聞いたときには、どぶろく祭り前には何と
かなるだろうとの希望的話だったが、結局ダメ。

3. 白山北東方

白木峰への林道は、入ってすぐのところで道路決壊。一応、鉄板敷きの応急措
置中ながら、これから本格的な工事となれば、当分通行できない見込み。

金剛堂山の北の、竜口谷下流域は、「スノーバレー利賀」スキー場新設のた
め、大きく変わっている。金剛堂山への登路は、地理院の地図のようではなく、
2.5万図の標高778m地点から登るようになっている。

白川村から利賀村への牛首峠林道は、通行可。ただし、水無ダムへ降りると非
常な悪路につき、通過するなら北へ抜けるのがよい。ダムから水無を経て檜峠へ
抜ける部分(舗装道路だが)は、数カ所で道路が決壊し、その都度河床へ降りる
ことになる。水無の上流から、北に峠を越えて百瀬川へ抜ける道は、問題なく通
行可。この途中の峠から金剛堂山へも問題なし。ただし、3年ほど前は尾根上の
細い道を金剛堂山に向かって2kmくらい車で入れたが、今は道路が荒れていて不可。

以上、この秋は、どこに行っても道は通行止めが多く、辟易でした。
ほとんど山にも登らずに、唯一、三方岩岳に混雑覚悟で知人を誘って昼食ついでに行ってみたところ、大混雑かと思いきや意外にも、紅葉期の休日にしては珍しく10人程度の静かな山頂でした。その日、6日は変な天気、昼過ぎから北西方は低い雲。東から南にかけてはやや霞んではいるものの北アルプスも見え、空には見事な巻雲。むろん、雪の白山も逆光の中ながら見事。
蛇谷では、いつもの年の11月には名残の紅葉となっているものが、今年は下部では今が最盛期で、10日で道路閉鎖がもたないような。
(追加情報:姥ヶ滝の前の露天風呂はお湯が無く、河原に大量の噴湯あり)

追加:どこに行っても通行止めの今年ながら、唯一、楽しい山の紹介を
北アルプス北端の僧ヶ岳:宇奈月からの林道は珍しく全線通行可。1043m地点まで登れば、黒部の谷を隔てて、雪の来た朝日岳・白馬岳・五龍岳などの大展望が得られ、そこでの夕暮れの眺めは忘れがたい贅沢な眺め。その先非舗装となるが1280mまで上がれば、登頂時間も大幅に短縮。なお、写真を撮りに来ていた地元の話では、この道は、雪が来れば自然に通れなくなるだけで、道路閉鎖はしないとの由。どこでも林道にはゲートの昨今、大変ありがたい話でした。(注:この道は舗装区間でもガードレールなど一切無く、高所恐怖症の方には向きません)

最後に戻る際の経路の話を一点
大系線沿線の平岩から小谷温泉に抜けようと思ったものの、相当に登ってから初めて道路決壊・通行止めを知り、大変な時間のロスでした。戻って聞いたところ、通常コースで小谷温泉には行けるが、乙見山峠經由妙高高原への道は、先頃ようやく開通したものの直後の雨で再び通行止めとなった由(小谷温泉の旅館談)。
なお、この対岸の蓮華温泉への道は、国道分岐・入口での2種の表示によれば、「道路閉鎖、開くのは6月下旬」と「11月20日まで工事中立入禁止」です。多分どちらも正しく、工事が終わってもヒワ平のゲートは来春まで閉鎖でしょう。

以上、つつい長くなりましたが、皆様のご参考になればと思いますので。
では、今年最後の紅葉期に、楽しい山歩きがありますように。

99年10月05
日

平成11年10月7日、11期OB 長岡正利より

北アルプス北部の紅葉便り

先週末に、白馬岳北方の蓮華温泉に行ってきました。
この週末は連休につき、山にお出かけの方もあろうかと思い、また、出かけずとも、昔日の秋のPWの記憶の時期でもありますので、ご参考になればと思って、最近の紅葉状況です。

また、11期OB 森川様の、先の公開質問のOB通信(次記)の答えを兼ねます。
>長岡氏へ
>蓮華温泉の湯加減は?紅葉にはまだ早いのかな?

1. まず、「湯加減」につき

一番高所にある「薬師ノ湯」は適温で、昔に変わらず、山々の眺めも抜群。
一番大きな「仙気ノ湯」は、大変高温だったが、導水パイプを何とかしておいたので、丁度適温とすることが出来るようになった。辺りは開けているので、展望も良好。

「黄金湯」はダケカンバの樹林の中だが、朝日岳も眺められ、適温でまあまあ。

もう一つ、ぬるくて小さい(名称失念)があったがこれはカット。

以上、20~30年前のままと言っても、そう間違いではない、昔ながらの露天風呂。

小屋の方は、昔とは完全に様変わり、昔は、車道終点から吊り橋を渡って30分ほどかかったものが、道は全線舗装となって、山小屋風大旅館(?)のすぐ手前に広い駐車場。小屋も大きな2棟に建て替えられて、立派な内風呂もある。小屋から露天風呂までは、山道を徒歩10分くらい。

2. 次に紅葉

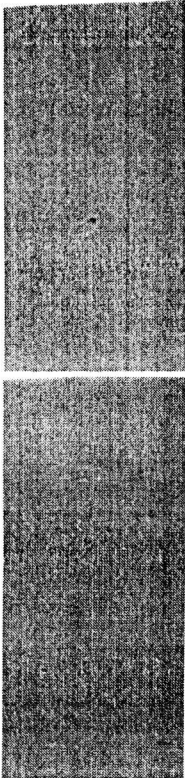
今年の紅葉の始まりはかなり遅く、10日以上も遅れている感じです。

標高1000m位(蓮華温泉への途上の白池あたり)では、ブナ原生林(ブナのほか、ミズナラ、トチノキなど)にはようやく紅葉の気配が感じられる程度でした。緑の中に、黄色の葉がかなり見えるくらいで、全体としては緑色。

同温泉の露天風呂のある1550m辺りでは、ナナカマドの赤い実とその紅葉が見事。ただし、ブナなどは同前。

下って、朝日岳への途上の、標高1350m位の兵馬ノ平の湿原では、一面の枯れ原。

望見する朝日岳や小蓮華岳の、北アルプスの稜線では、ハイマツの緑の中に草原は紅葉の盛り、その下のダケカンバの疎林も黄葉の盛りのようでした。



貴重な休暇を使って到着した金曜日は山々はガスの中。翌日は、予報が見事にはずれて、夜明け前から月光が煌々で、風は暖かく、快晴・絶好の登山日和。
到着の夕刻は、もう誰も登ってこない夕暮れの、霧に包まれ始めた露天風呂に暖まってるビール。
翌払暁は、月光のもとで登り始めて、次第に白んでいく空のもとで、朝焼けの雲と紅葉の始まった山々を遠望しつつの朝酒もなかなか良いものでした。
(ちなみに、金曜日の宿泊者は10人くらい、それが翌朝になると、10時くらいには続々と車が上がってきて・・・休日は避けた方が良さそうです。)

では皆様、今年も、爽秋の山々での遊びがありますよう。

(追補)

ところで、この季節、温泉や紅葉もさることながら、秋の山の味覚も是非にと思います。

今年は、秋の暑さが続いたせいで、例年になく、キノコが大豊作です。
先の蓮華温泉でも、至る所でナラタケ(地方名はモタセ)が、本当に容易にとれました。林床にネマガリタケが多いようなやや湿った感じの山腹で、かなり朽ちた大きな倒木を探すと、確実に多数群生している。菌切れ・口あたりがよく、ナメコほどではないがややぬめりもあって、豆腐とのみそ汁などに最適。ゆでて食べても可。何しろ、ものの10分間も林に入れば、ビニール袋が一杯になるくらいで。

ほか、少数ながら、ムラサキシメジも見ました。一件、毒キノコに見まごう美しい紫色(素人はちょっと手を出さないような色)ながら、口あたりがよくて吸い物に最適。

なお、見なかったが、伐採後数年くらいのブナのエをみつけられれば、その切り株のところで、今年のような年には天然ナメコがかなり採れるはずですよ。

99年09月15
日

11期OB、長岡よりご連絡

ご無沙汰いたしております。

この20日(月)・21日(火)に七尾市で、25日(土)・26日(日)に金沢で、下記のように、それぞれ地図関係(特に伊能図)の催しがあります。北陸在住の方で興味がありますれば、どうぞご覧戴ければと思います。日々慌ただしく、直前のお知らせで申し訳ありません。

なお、小生は、関係者として、展示または講演の会場にすることが多いと思います。

1)七尾市にて

「伊能忠敬フェスティバルin七尾」

地図展:

七尾短期大学体育館にて、20日(月)14:00~21日(火)16:00

伊能図大図(複製)を床面に大展示

ほか、同 中図・小図、関係資料、別にその他の地図の展示

注目すべきは、16~17世紀にかけて活躍したオルテリウスやメルカトルの著名な地図(市内の篤志家所蔵の本物)があり、これらを一堂に、かつ、すぐ間近に拝見できるのは、東京においてもまたと得られない機会です。

別に、講演会:

同短大の大講義室にて、20日(月)18:00~20:00

講師・渡辺一郎(伊能忠敬研究会代表)

「伊能図探究と伊能測量の実像」

野々村邦夫(前・国土地理院長)

「伊能以降、明治、現代、そして未来の測量」

なお、朝日新聞ほか主催の「伊能ウォーク」(全国を一筆書き的に歩いている催し)が、21日(火)夕方に七尾市に到着し、翌日朝、羽咋市へ向けて出発します。この「ウォーク」への参加も可。

2)金沢市にて

「金沢で伊能大図を見る会」

地図展:

金沢市中央小学校体育館、25日(土)13:00~26日(日)15:00

伊能図大図(複製)全69点を床面に大展示

ほか、同 中図・小図、関係資料、別にその他の地図の展示

別に、講演会:

「アートシアターいしかわ」(ラブリ片町7階)にて、25日(土)13:00~16:00

(ラブリ片町とは、昔の大和デパートの建物)

講師・渡辺一郎(伊能忠敬研究会代表)

「伊能忠敬と全国測量」

伊能陽子(忠敬のご係累:伊能忠敬研究会)

「ご縁がありまして」

(近況)

郷里からの小原風の盆(9月初の越中八尾:哀愁を帯びた胡弓の調べと唄)のたよりが過ぎると秋は駆け足、の筈が、この暑さ(台風)で、今日は、朝からツクツクボウシが鳴く1日でした。

再就職から月余を経て、カラコルム山中での静寂の夜(確かに、本当の夜がありました)のこと、あるいはパキスタンの街々での喧噪の日々は遠い夢の世界の如くです。

99年08月22
日

先に辞職(6月1日付け)のご挨拶を書き込んで以来、すっかりご無沙汰となっておりましたが、近況です。

この8月より、財団法人 日本地図センター に勤務いたしております。引き続き地図関係の職務についておりますので、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

なお残暑の厳しい折から、皆様の一層の御健勝をお祈り申し上げます。

8月22日、長岡正利

自宅 茨城県 筑波郡 谷和原村 西ノ台 11-1

Tel.& Fax.: 0297-52-4977

E-mail : nagaoka@beige.ocn.ne.jp

Nifty Serve; QZM10636 (FYAMAP会員)

勤務先 東京都 目黒区 青葉台 4-9-6

Tel. : 03-3485-5418

Fax. : 03-3485-5593

E-mail: nagaoka@jmc.or.jp

[近 況]

ご挨拶のとおり、2ヶ月間の空白の時間がありました。

この間、パキスタン北部のカラコルム山脈/バルト氷河源頭の地などを歩いて参りました。かの地にて、8000mの山々に囲まれていると、これまでの山の記憶も総てどこかに消えてしまうような、壮大な眺めでした。

退職直後には、これであろうくに心のゆとりを得ることが出来ると浮き立つ心持ちで、これからは、古今の書に親しみ、和洋の音楽を愉しみ、西域関係の探検史を学び、などと思ったのもつかの間、再就職して以来、毎朝6時10分出發の慌ただしい生活です。しかし、読書時間(列車中での)だけは確実に増えそうです。

カラコルムの静寂につつまれた眠りの中で、テントの下で凍りついた岩片を載せた氷の底から伝わってくる氷河の微かな震えに気づいて起き出せば、満天に総ての星は煌々と輝き、本当に物音一つない夜がありました。

このところ、陽射しの中でのヒグラシ、夜更けてのコオロギの音が賑やかです。再就職から半月、カラコルム山中での日々は夢まぼろしのようです。

[近況: 少し前の話]

旧盆過ぎの日、11期OBの加藤氏を誘って、車で慌ただしく白山麓に、主に出作り地を廻ってきました。一緒に歩いているといろいろなことを思い出します。なぜか旧知の人に会ったり、出作り地では、人は老いとやはり育ったところが懐かしいのか、簡単な小屋掛けで戻っている人が少し増えました。

大道谷の五十谷の奥、かつて、のどかな出作り地の風光を四季折々に撮影した地には、白山麓の人のものではないような家が建っていました。出作りの家が雪に漬れたあとも、白山の展望を楽しみつつ昼食をとるのに絶好の地でしたが、また、白峰の西山山麓では、立派な道や建物・スキー場新設などの大改変中で、ここも良い展望の地だったのですが・・・。

久々に何もしない日曜日。ヒマは本当にいいものです。パソコンに向かう目を上げれば、ノウゼンカズラの橙色の花(例年は咲き終わっている頃)が揺れ、まだ芙蓉の花も見える。本当に、緑に囲まれた夏の休みはいいですねえ。加藤氏の言うに「閑こそ我が人生」。再就職した今、早くも再び、そうありたいとの思いです。

99年06月18
日

WVのホームページ冒頭から、下記の「OB通信」をお送りしました(届いているでしょうね)。以前にメール交信のあった方にはご挨拶したものの、ほかの方へのがずいぶん遅くなってしまいました。

これで、安心してパキスタンに出發です。

11期OB、長岡正利

辞職のご挨拶

何かと慌ただしく、皆様へのご挨拶がすっかり遅くなりましたが、11期OBの長岡正利は、去る6月1日付けをもちまして建設省国土地理院を辞職致しました。(建設省版「お役所の定め」。)もう程々の歳ともなりましたので。時にOB会誌に顔を出したりなど、その他、皆様方には公私にわたるご厚情を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。今後とも一層のご厚誼をお願い申し上げますとともに、皆様方の御健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

ところで、しばらく自由となれそうで、ようやく心のゆとりを得ることが出来そうだったのも最初の3日くらいでした。これまでに累積した諸々のものの整理の大変さを思い知り、当初思い描いた、古今の書に親しみ、和洋の音楽を愉しみ、西域関係の心ときめく探検史を学ぶなど致したいなどと思ったのも、どうもまだ夢です。

しかし、せっかくの自由の身、今日より7月19日までのほぼ1ヶ月間をかけて、長年の憧れであったパキスタン北部を歩いて参ります。

(追伸)

メールアドレス変更のお知らせ

以前から、小生のメールアドレス(旧)は、@の前文字「1」が、「エル」か「いち」か紛らわしいと一部の方から不評がありましたので、この際、あわせてアドレスを変更し、@の前の1を削りました。

新は、nagaoka@beige.ocn.ne.jp です。

なお、これまでの勤務先 国土地理院でのメールアドレス nagaoka@gsi-mc.go.jp では受けられなくなっておりますので、申し添えます。

11期 森川

99年10月15
日

残念！

奥名君が9日に登っていたのなら、ボッカを頼むのだった。

別当→室堂、私には長すぎた。

南龍への分岐までは快調だったが、それ以上は身体が言う事を聞かない。

それでも、室堂へ到着後雲もきれ、雲海もきれいなので、つい、御前峰へ

その登りで食べた、いや撮った「クロマメノ木」です。

今年は実も小さく、味もイマイチというより全然悪い。

頂上でバスで一緒だった人と会い、御池巡りを案内して室堂手前で

雲海に沈む夕日をみた。(9日は快晴の予定だったが？15:30頃から晴れたのはなぜかな？

奥名君理由分かりますか？)

10日御前峰で御来迎を拝む。考えて見るに御前からは生まれて始めて。

(いつも、楽しんで室堂平からみていた。)

おかげで、お神酒をいただき、

飲んだ勢いと天気もよく、御池巡りも昨日したことだし、

気を大きくして、別山に登る事に予定を変更した。(当初予定は室堂2泊)

花は咲いていないが夏山のような天気、別山へのプロムナードコースを楽しむ予定が暑い。

別山頂上で昼寝を楽しんで、チブリ避難小屋へ。

小屋はマツムシソウが一輪だけ、咲いており、

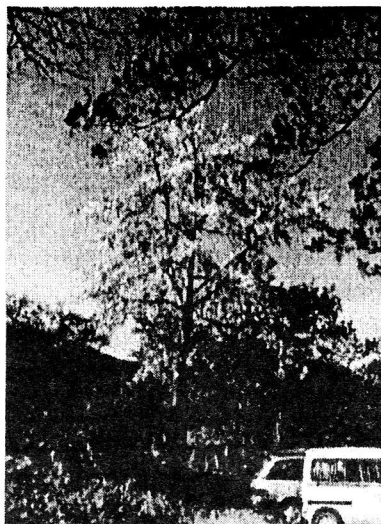
トイレはステンレス製新品になっているし、宿泊者は中年の夫婦と3人のみ。

快適この上なし。(この御夫婦に白峰の総湯経由鶴来まで乗せてもらった。)

クロマメの木は楽しめなかったが川原であけびとグミは楽しめた。

山ぐりがたくさん落ちていたが、拾えなかったのが、心のこりだが。

ところで、自然解説員殿にお聞きするのだが、市ノ瀬の駐車場にある白い木は何ていうのですか？



99年09月16
日

@15期に入れてもらった森川です。
先日は本当にありがとうございます。

桑名に通産43年住んでいるが、
木曾川の向こうに三重県があったこと。
温泉通の私が木曾岬温泉を知らなかった事。
桑名市の長者番付け10位以内にいる祖父江整形を見たことがなかった事。
友人がおり、昨年も2~3回その近くまで行っているのに、
食べたことがなかった長島のケーキ。
さすがの加賀美人達も霞んでみえたベコニアガーデンと
会長より小さいジョッキしか飲めなかったビール園。
毎日通勤列車から眺めているが、おいしいシジミの味噌汁を
飲めなくしてくれている長良川河口堰。

そして、白山自然解説員にハマナスの花を教えてやり、
思いがけない事に実物を見せてやれた事。
ハマナスはやはり、「浜の梨」が訛ったものだと思う。
是非実を食べてみて下さい。
私はピンクの花しか知らないが、白い花もあるそうです。

それにしても、15期は人材が豊富ですね。
変わった人が揃っていることでは、11期といい勝負ですね。
今回は雪の温泉で勝負できるのを楽しみにしています。

99年09月05
日

森川です。
なかなか変わった雲ですね。
お父さんも実際にこの雲見れたのかな？
白山では加藤氏と同じで、御来光を見に御前まで登る元気がなく、
室堂平まで行ったが、雲の色が変わるのがみれただけだった。
奥長倉避難小屋からも同じだった。

白山の御来光が見える所を連絡します。
「白山」<http://www.vcnet.fukuifukui.jp/~harariki/hakusan/index.htm>

もう一つ、兼六園などどうですか。
「盆栽」<http://www.freepage.total.co.jp/takasi/index.htm>

来週は楽しみな同期会です。
祖父江幹事長にべんつに乗せて連れていってもらえる約束も出来たし、
後は体調を整えるだけ。

99年08月29
日

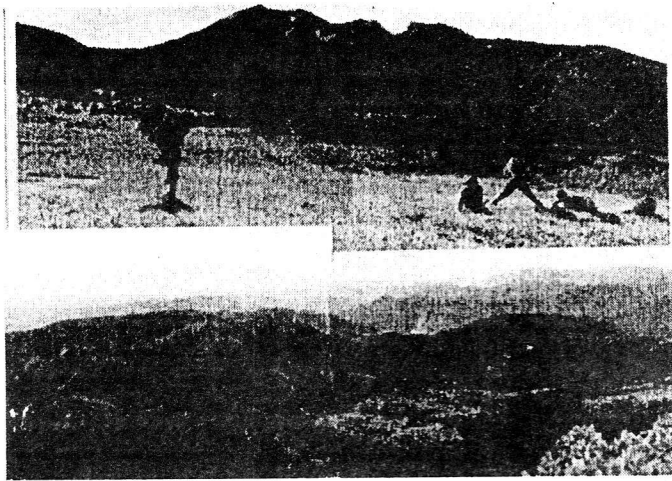
KUWVホームページ見せてもらいました。
急速に進歩していますね。
特に、「白山 photo gallery」気に入りました。

さすが、ハクサン自然解説員。
今年の成果が良く現れています。
9/11夜には、スライド上映会が開催されるのかな？
今から楽しみにしています。

ところで、奥名君は今年何回、何日白山へいったのですか？
その気力、体力には驚嘆します。
(アメニモマケズ、カゼニモマケズ、……)
私など、御前峰に行くのに3日もかかっているのに。

「シラタマノキ」懐かしいですね。
葉は覚えていないが、秋になると、白い実？がなり、
食べるとサロメチール(サルチルサンメチル)の味がします。
是非秋に行き確認してください。
昔、歩きながら、「クロマメノキ」の実を食べながら、
口直しに「シラタマノキ」の実を食べたものです。
(タダシ、自然解説員には内緒にしておいて、下さい。
罰金をとられるといけないから。)

百四丈の滝、一度ごらんあれ。
それよりも、是非清浄ヶ原を尋ねて下さい。
何も無いが、静かな広い草原です。
写真でその、良さが表わせない所です。
1971年百四丈の滝に行った時、私が一番気に入ったのは、
滝の上の覗き岩と清浄ヶ原です。
今回四塚から、しみじみと眺めることができました。



99年08月21
日

むかし、むかしアオヤギさんが社会人1年生だった頃、
加藤の父さんに秋の清浄ヶ原へ連れて行ってもらいました。
そのメンバーは訓子(3年)、矢津嬢(2年)、上馬君(1年)、南保君(1年)
そして私。確か
楽々新道を登り、小桜平で一泊。
その夜中、大雨、誰か1年生が冷たいと言いたしたが、
リーダーが雨が降っているのだから我慢せいと文句を言っていた。
少しすると女性陣も冷たいといいだし、
女性に弱いリーダーがテントの外に出て見ると周りは川
あわてて、シュラフをたたみ、起きるが腰を下ろすところもない。
保安林の看板を盗って来てその上にしゃがんで夜をすごす。
あくる日、濡れたものを乾かし、夕方滝谷上部まで歩いて1泊。
翌日は晴れ。
日本にもこんな草原があったかという清浄ヶ原を歩いて百四丈滝上部へ。
この頃滝は上部で岩のため二筋に分かれており、
その岩に乗って滝を覗けた。覗いた。
その岩が上馬君の写真集ではなくなっていた。
そのあと、滝を見る為に尾添尾根の加賀室跡まで登り、
テントに戻り、清浄ヶ原ヒュッテ(その当時でも壊れていた)まで行き、
(K君が長岡とデートの約束をしていたので)1泊。
あくる日、四ツ塚でY嬢がコンタクトを落とした。
30分程さがして、あきらめることとしたが、
コンタクトの値段を聞いて再度探し、2時間かかって見付けた。
その後釈迦経由で一ノ瀬へ。
実に思い出多き変なパーワンであった。

アルバムを見たら、リーダーのカッコイイ言葉が載っていたので紹介しておく。

(お父さんゴメンね)

「このPWは白山の草原地帯を歩く。
小桜平、清浄ヶ原、北弥陀が原、
そして最大の目的は百四丈の滝である。
白山でも有数の滝ではあるが、秘かな者だけを待つかのように。
その姿を今は廃道になった尾添尾根の方からしか望めない。
滝はきっと三重の虹の乱舞を我々に見せてくれるに違いない。
岩間道から見る白山は険しい。
紅葉の奥に何色の白山を見ることであろうか。」

お父さん、昔はカッコよかったね。

15期 上馬

99年09月08
日

いつも便りをありがとう。山に行けない身には少しつらいけれど、早く行けるようにと元気づけられます。

今度の15期会には、2人で高速バスで行くことにしました。初めは車でと思っていたのですが、舟田さんからの電話があったり、それに体調も十分ではありませんので。片町9:40発に乗車します。君もバスらしいですが、同じ便ですか。

メールのアドレス下記のように変えておいてください。